平成２８年度教員免許状更新講習
時間割・概要

【選択領域１　国語科の教育内容の充実に向けて】

７月３０日（土曜日）

《時間割》

時　間	科　目　等
８：１５～　８：４５	受付
８：４５～　８：５５	開講式・オリエンテーション
９：００～１０：３０	実学の「百人一首」　（講師　藤川　功和）
１０：４０～１２：１０	太宰治『富嶽百景』を読む　（講師　原　卓史　）
１３：１０～１４：４０	リテラシーの現在：文芸と視覚映像文化の交点　（講師　小畑　拓也）
１４：５０～１６：２０	書く楽しさ、読む楽しさ　（講師　光原　百合）
１６：３０～１７：２０	履修認定試験（筆記試験）

《概　要》

実学の「百人一首」　（講師　藤川　功和）
平成も四半世紀を過ぎる中、未だ毎年夥しい数の研究書、ガイドブック、果てはコミックスやアニメまで産み出され続ける『百人一首』。その享受の豊穣さは、何も今に始まったものではなく、パロディやスピンオフ、コラボレーションなど多種多様な楽しみ方を、既に江戸時代の書物群に確認し得る。本講義では、特に「実学」をキーワードに、当時の『百人一首』享受の具体を辿る事で、この誰もが知っている秀歌撰の特色の一端に迫ってみたい。
太宰治『富嶽百景』を読む　（講師　原　卓史　）
太宰治「富嶽百景」(『文体』一九三九年二～三月）を取り上げる。当該作品は、国語教育の教材として古くから用いられてきた。そのため、文学研究のみならず、教材研究も数多く発表されている。今回の授業では、主人公の「私」が富士山との対話を通して内面を回復していく様を中心に、新たな読解の可能性を探っていきたい。研究史を概観しつつ、近年発表された新しい学説にも触れながら、話を進めていくこととする。
リテラシーの現在：文芸と視覚映像文化の交点　（講師　小畑　拓也）
文学・文芸は、言葉を用いて人間を取り巻く世界を理解しやすいように分節化・物語化する手段であったため、リテラシー（＝読み書きの能力）の核は音声と文字でした。しかし、20 世紀中盤以降の映像メディアと ICT の普及により、文学・文芸体験がマルチメディア化するなか、リテラシーも視覚映像文化に大きく依存するようになりました。視覚映像文化と文芸、それぞれの「文法」が交差する実例をもとに、リテラシーの現在について考えます。
書く楽しさ、読む楽しさ　（講師　光原　百合）
メールやＳＮＳの普及により、現代の子どもたちは「書く」こと自体には意外になじんでいるように思えます。しかしそのせいで短文ばかり書いている反動か、筋の通ったまとまりのある文章を書くことは苦手にしているようです。まとまりのある文章を書く楽しさに気づかせるために文芸創作の授業で取り組んでいる課題のいくつかを紹介します。また読書指導の手法の一つとして、最近話題になっている「ビブリオバトル」についても紹介する予定です。